様式３　その１

学校番号 43

令和4年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立筑紫丘高等学校

自己評価

学校経営計画（4月）

学校運営方針	○豊かな心と創造力に富み、世界に貢献できる人材を育成する。 ○生徒が自ら考え、判断し、行動し、さまざまな体験から多くを学ぶ指導をすべての教育活動で実践する。		評価（総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
適切な教育課程を編成し、3年間を見通した体系的な教育活動を展開することで、その取組の成果が確実に表れている。新学習指導要領に沿った観点別学習状況の評価、効果的にICTを活用するハイブリット型授業の実践や探究活動を計画的・継続的に実施することで、高い学力と課題解決能力を育成する。また、社会の一員としての自覚と責任の育成を図り、主体的に持続可能な社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を育てる。	【知性】 高い学力と、それを活用して課題を解決する力、新たなものを創造する力を育む。	(1)十分な知識及び技能を習得させ、主体的に学ぶ態度を育成する。 (2)言語活動の一層の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育成し、他者との協働性を育成する。 (3)理数教育の更なる充実とICT機器の効果的な活用を図る。	A
	【社会性】 集団や社会の一員としての望ましい態度や行動の在り方を身に付けさせる。	(1)主体的に考えて、自律心を持って行動できる社会の一員としての自覚と責任を育成し、生命の尊重と安全な生活態度や規律ある習慣を確立させる。 (2)主体的なリーダー、フォロワーの育成及びたくましい体と強い精神力を育成する。 (3)協働の喜び、達成感・連帯感を醸成し、互いの個性と人権を尊重し合う環境を作る。	
	【気概】 自らの可能性を高め、挑戦する気概をもち、社会の発展に貢献する高い志を持たせる。	(1)多様な体験から、自分の個性を理解し伸張させることにより、キャリアプランニング能力を育成する。 (2)自他の人権を尊重し、互いに高め合う環境の中で困難を克服できる健やかな心身と、グローバルな視野をもって社会にはばたく力を育成する。 (3)自己の夢の実現とともに持続可能な社会の形成に参画し、世のため人のために力を尽くす志を育成する。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
学力の向上	○高い学力と、それを活用して課題を解決する力、新たなものを創造する力の育成	学力の向上・定着につながる考査の運用及び事前から事後までを含めた指導の徹底を図る。	A	A	A	○新教育課程1年目（1年生）が始まり、3年間の指導計画を実践し検証、確立していくことで、入試制度改革（共通テスト等）に対応できるように進めていく。3観点で評価する観点別学習評価において、今年度が実施3年目となり、通知表や生徒指導要録にも記載されている。今年度までに蓄積してきた評価方法をさらに充実させるとともに、授業改善にも繋げていく。 ○ICT機器の活用と、主体的・対話的で深い学びを推進することで、授業改善を進めていく。総合的な探究の時間の内容をさらに充実・発展させることや授業改善の取り組みを進めることにより、課題発見・解決能力を高めるための探究活動の充実を図る。 ○科学技術コンテストは、理数科を中心に多くの生徒が受験し、学習意欲の喚起としての効果を十分あげている。また、生徒の積極的に校外活動へ挑戦する気概の醸成も進んでおり、生徒の自然科学に対する興味・関心を高めるためにも、次年度以降も生徒の積極的な校外活動への参加を促していく。昨年度は中止した理数科の種子島・屋久島研修は、本年度実施できたので、次年度は研修内容の更なる充実を図っていく。
		新教育課程や大学入試制度改革等への対応を見通した類型と指導方法の研究を行う。	A			
	○主体的な学習や他者との協働による思考力・判断力・表現力の育成	主体的・対話的で深い学び、ICT機器を活用したハイブリット型授業及び3観点での評価を実施する。	A	A		
		生活実態調査、出席統計など全職員で情報を共有し、きめ細やかな指導を徹底する。	B			
	○自らの可能性を高め、挑戦する気概をもち社会の発展に貢献する高い志の涵養	総合的な探究の時間の内容・評価の検証を行い、探究活動の更なる充実を推進する。	A	A		
		実用性の高いシラバスの作成・配付及び実際の授業進度との点検・修正を行う。	A			
		各種指導計画と実際の授業状況を確認し、授業および授業計画へのフィードバックの充実を図る。	B			
	○理数教育の充実	「高校生科学技術コンテスト」や「QFC－SP」等へ積極的に参加を促進する。	A	A		
		理数科独自の研修やセミナー、講演会等の更なる充実を図り、生徒の内発的動機を喚起する。	A			
生徒の健全育成	○集団や社会の一員としての自覚と責任の育成	さわやかな挨拶と端正な身だしなみ、マナーや交通安全指導を徹底する。また、生徒の主体的清掃活動を促す。	B	A	A	○挨拶は良くできるようになった。清掃も真面目に行う生徒が多い。次年度も継続していきたい。 ○スマートフォンやSNSの普及により、生徒の行動の把握が難しくなっている。問題が発覚したときには、すでに重大な事案になっていることもあるので、普段から生徒を細かく観察し、少しでも気になることがあれば声をかける等の対応をしていく。 ○ここ数年、行事運営のノウハウなど、従来ならば生徒間で引き継いできたものが途切れているため、何をするにしても経験が無く、教員の指示を待つ状態になっているが、ここで手をかけて指導し、行事を生徒に返していく必要がある。 ○これまでと違い、「成人として卒業させる」ということを教員が重く受けとめ、家庭と連携をとりながら、成人した生徒と接していく。 ○部活動集会も軌道に乗り、有意義な場となっている。次年度は様々な立場の教員・生徒に前で話をする機会を設定したい。 ○生徒サポート委員会には、毎回全学年多数の生徒の報告があるが、支援の方法について、全て答えが出るばかりではない。特に矢面で対応する担任の負担が増している。今後は分業制を設定する、学校外に支援を移行する等、教員をしっかりと支えるシステムを構築していかないと、教員自体が業務を続けることが困難になっていく。 ○教育相談・健康相談は多くの機会を設定して効果が上がっている。職員研修で不登校の生徒への対応や、保護者対応に関する内容を取り入れたい。 ○健康診断や身体測定は円滑に実施できた。心肺蘇生法・AED研修、エピペン研修も実践的な研修が実施できた。
		いじめに対する認識を確認し、SNSを含めた生徒の動向を観察しながら、些細な兆候を見逃すことなく、いじめの早期発見に努め安全・安心な教育環境を確立する。	A			
		生徒の自主的な活動を奨励し、生徒会活動の活性化を図る。また、主体的なリーダー・フォロワーの育成を図る。	B			
		生徒が将来社会の一員として健全に社会参画できるよう、成年年齢引き下げへの対応、主権者教育の充実を図る。	A			
	○協働の喜び、達成感・連帯感の醸成	「筑高三大行事」の運営を通してリーダーシップ、フォロワーシップを育成しながら、組織の在り方を学ばせる。また、学んだこと、経験したことを日常の学校生活に反映させる指導の充実を図る。	B	B		
		部活動集会・部長会議を活用し、部活動生の意識向上につなげ、部活動を奨励する。	A			
	○生徒理解の深化	スクールカウンセリング、面談ウイーク、オフィスアワー等の教育相談体制を充実させ、生徒の心のサポートを行う。	A	A		
		生徒サポート委員会や学年会で生徒の状況を把握し、生徒を深く理解し、情報を共有して指導に当たることで不適応傾向の早期発見に努める。	B			
		特別の支援を要する生徒への「合理的配慮」を推進し、指導体制を整えるとともに、保護者と連携し「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成する。	A			
	○健康安全教育の充実	健康診断、身体測定、体力測定のスムーズな運営と精度を向上させる。	A	A		
		心肺蘇生法、AED、アレルギー（エピペン含）研修を実施する。	A			
進路指導の充実	○生徒の主体的な学習を促すための3年間を見通した進路指導計画の継続的見直し及び効果的な模擬試験等の実施、資料作成	模擬試験等の結果分析や生徒の学力実態、志望動向を把握し、生徒の進路実現を支援する。	B	A	A	○模擬試験等の結果を分析し、生徒個々の希望進路に合わせて担任による面談等の指導にあたることができた。 ○本校生徒が多く進学希望する大学、学部、学科で専任された広報・入試担当からの情報を収集した。さらに進路指導に係る多様な情報を広く収集し、適切に校内で共有するとともに、学年集会等で生徒へ進路情報を提供することができた。 ○例年の水準で進路指導を実現できたことは一定の成果を得られた。しかし、類型別の課外や進路別二次対策等について一部教科・科目では改善が図られたものの、全教科に波及しているわけではない。次年度はこの観点で多くの教科で改善を図っていきたい。 ○キャリア教育に関するほとんどすべての教育活動をコロナ禍前の水準で実施することができた。 ○海外研修は、複数の分掌で協働し、社会情勢や各種手続きを段階的に踏みながら、実施に向けて鋭意努力していきたい。 ○キャリア教育をさらに充実させ、総合型選抜等の募集人数が拡大する見込みの大学入試制度に対応する体制へ引き続き改善を図っていきたい。
		客観的データを根拠に生徒に自信をつけさせると共に、難関大学を志望する生徒に対するサポート体制を充実させ、難関大志願者の増加を図る。	A			
	○生徒の適切な情報管理・運用能力の向上を図るための的確な進路情報の提供による学習意欲の喚起	大学入試制度改革に関する情報の収集と提供を行い、生徒が広い視野を持って進路選択ができるよう進路指導を徹底するとともに、個人面談を中心としたサポート体制を整える。	A	B		
		生徒の多様な進路希望に対応した、類型別の課外、グレードアップセミナー、進路別二次対策講座を充実させる。また、難関大学の総合型選抜や学校推薦型選抜入試に対応した指導を行う。	B			
	○自らの可能性を高め、社会に貢献する高い志を持たせるため、キャリアプランニング能力やグローバルな視野を持つ人材の育成	社会人講演会や医学部・難関大学進学講座の一層の充実を図るとともに、外部講座やインターンシップへの積極的な参加を促すなど、「高い志」を涵養する。	A	A		
		高大連携事業や海外研修の実施を通じ、グローバルな視野をもつ人材の育成を図る。	B			
	○言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成や主体的に学ぶ態度の育成を図ることによる課題解決能力や創造力の育成	小論文コンクールの各ジャンルで優れた作品を出品できるよう指導の徹底を図る。	A	A		
		「総合的な探究の時間」及び課題研究等の更なる内容の充実を図る。また、GTECをはじめ、検定等を活用した英語運用能力の向上を図る。	A			

学校関係者評価

評価（総合）	
A	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや不適切である D ： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	○ICT活用等を通じて生徒が充実感や満足感を得られるように工夫されている。 ○目標を見失ったり、学習意欲が低くなったりした生徒に対して、丁寧に対応されている。できるだけ早く把握し適切な助言を行うなど、今後も対応を充実させてほしい。 ○先生方の授業改善によって生徒の興味関心を引き出し、一層の学力向上を実現してほしい。
A	○コロナ禍で三大行事（翔丘祭、大運動会、予餞会）を経験していない生徒と共に、行事の継承のために様々な苦労があったことと思う。 ○生徒は学校行事をはじめ、様々な教育活動の中で経験する成功や失敗を通して成長するものと思うので、先生方が結果を求めすぎることなく、見守りながら指導することが大切だと思う。 ○個に応じた指導や、外部機関と連携した指導が適切になされている。
A	○本校の生徒には高い志をもって社会を支える人材になってほしい。自己の将来像を確立するだけでなく、社会とどのように関わっていくのかを考えさせるような視点からのキャリア教育をさらに充実させてほしい。 ○グローバル化を視野に入れた進路指導の充実に努められている。

その2

広報活動の充実	○中学生とその保護者への積極的広報の推進	中学校、学習塾への広報活動の充実させると共に、理数科の広報のために第4・6学区の中学校訪問を積極的に実施する。	A	A	A	○中学生の体験入学と中学校3年生保護者対象進路説明会は別日程で行ったが、参加人数の制限なく実施でき、参加者アンケートの結果も好評であった。次年度もさらなる充実を図り、満足度の高いものとしていく。 ○第5学区進路相談事業は感染症対策を徹底して実施できた。進路相談など多数の生徒・保護者が本校の会場を訪れ、本校のPRが十分にできた。次年度も展示内容など、更に充実したものにしていく。 ○学校案内、広報資料、広報用ビデオなど、内容を深めるとともに、ホームページの更新を進める。今年度開設した公式インスタグラムも充実させ、本校の魅力を更に発信していく。	A	○ホームページやInstagramによる情報発信が充実している。 ○卒業生が社会で活躍する姿を示すことによって、中学生に対するイメージアップに繋がると思う。
		中学生やその保護者、地域の人々に本校の魅力を的確に伝えるために、「中学生の体験入学」の内容を改善充実させるとともに、小学生に対する広報活動を広げていく。	A					
	○効果的な広報活動の展開	学校案内、広報資料、広報用ビデオ、ホームページでの最新情報提供等の内容を充実させ、本校の特色や魅力を外部に発信する。SNSの利用など、効果的な情報発信の方法について研究する。	A	A				
		本校の活性化のために、学校評議員や学校関係者評価委員に対し、積極的に学校行事への参加を要請するなどして、本校の教育活動に対しての意見を求める。	B					
図書活動の充実	○主体的な読書活動の推進と図書館の利用拡大	図書館オリエンテーションや読書週間を充実させる。また、読書案内「筑高の100冊」を活用し、生徒の主体的な読書活動や積極的な図書館利用を図る。	B	A	A	○読書案内「筑高の100冊」の改訂を行い，内容の充実を図る。図書館での文化部との合同イベントや，図書委員会の企画イベントのさらなる充実を図り，図書館利用者数の増加を目指したい。図書館でも生徒用タブレットPCを使用できるよう，Wi-Fi環境の整備を進める。	A	○「筑高の100冊」を活用した読書活動推奨の取組は素晴らしい。生徒がジャンルを問わず多くの書籍に触れ、そこから将来の目標に繋がるものを見つけてほしい。
		図書委員会の活性化により、読書環境の整備・魅力ある図書館運営を図る。	A					
	○情操教育の充実	芸術鑑賞を実施することにより、豊かな感性と多様な文化に親しむ態度を育成する。	A	A				
	○学校文化の継承	生徒の主体的活動と学校独自の文化や歴史の記録として校誌「筑紫丘」の計画的作成を行う。	A	A				
事務室運営	○経営参加型の事務室業務の推進	生徒・保護者のニーズに応えるため、より効果的な予算の編成・執行を行う。	A	A	A	○教員と連携を密にし、効率的な事務処理及び予算の執行を行っていく。 ○生徒、保護者に対し、よりわかりやすい内容で的確な情報発信に引き続き努めていく。	A	○教育活動を陰で支えているのが事務室だと思う。また、電話や窓口対応等で外部と最初に接触することが多く、学校の印象や評価に直結することもある。大変な仕事だが生徒のためにがんばってもらいたい。
		各分掌と情報の共有化を図り、教員との緊密な連携によって学校経営目標を実現するための事務処理を行う。	A					
		生徒・保護者に対して、より分かりやすい内容で的確に情報発信する。	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

○校内Wi-Fiの環境を整備し、ICT活用をさらに進め、教科指導の充実と授業改善に努める
○ホームページやInstagramによる情報発信をさらに充実させ、地域の方々に本校の教育活動の特色や魅力を理解していただく
○グローバル化を視野に入れたキャリア教育を充実させる
○学校徴収金や教材費等について保護者・生徒へ早期に情報提供を行う

評価項目以外のものに関する意見